

園だより



令和元年 8月 1日

社会福祉法人 新田保育園
園長 野村陽子

伝える力・聞く力

「幼保小連携活動」をご存知でしょうか。幼稚園、保育園から就学する1年生が、速やかに学校生活に移行できるよう、幼稚園、保育園、小学校で連携する活動のことで、区の教育委員会では10年前から力を入れている取り組みです。新田地域では、新田学園と認可保育園7園で連携活動を行っております。今年度、新田学園と7園では「伝える力・聞く力」をテーマに教育実践、保育実践で交流することになりました。

7月に開催された「座談会」(小学校1年生教員、年長担任、園長で語り合う会)では「伝える力・聞く力」をテーマに話し合いました。以下、小学校と園で出た、共通の課題です。

- ① 語彙が少なく、名詞で用事を済ませようとする。
例:「お茶ください」ではなく「お茶！」
- ② 具体的に何がどうしたか、言えない。
例:「嫌なことされた」「どういう嫌なこと?」「……」
- ③ 自分の主張はするが、相手の主張は聞くことができない。
- ④ 理解できる言葉の範囲が狭くなっている。



例:「〇〇以外の人」「きれいにやってみよう」→理解できない。具体的に言わないと伝わらない。

園でも、保育中に「お茶！」と言われることがあります。その場合、保育者は「お茶がどうしたの?」と聞くようにしています。言葉をはぐくむよう意図的に切り返していかなければ、名詞が飛び交う荒々しい空間になってしまうからです。(保育士の言葉かけは年齢の発達によっても違いますが)

しかし、伝える力・聞く力が育っている子もいます。その子たちの生活環境はどうなのか、このことも小学校と園で出し合ってみました。

- ① 家庭で話を聞いてもらっている子は、授業もよく聞き、友達の話も聞くことができる。
 - ② 読み聞かせ習慣のある子は、語彙が多く、友達の気持ちをくみとることができ、授業の理解度も高い。
- でも、このようなことは皆さんわかっていることなのです。もっと子どもの話を聞きたい、ゆっくり読み聞かせだっと思っていた。けれども、毎日の生活は忙しいのです。そこで、私のグループでは、家庭で子どもとの時間を創るため、工夫できることを考えました。

- ① 家事は手を抜こう！最新家電を活用しよう！
- ② 5分で良いから我が子と向き合ってみよう！

料理研究家の方も「学童のお弁当は、ワンパターンで良い」と言っていました。大人も無理しない。手を抜く努力をすることにしませんか？

新田保育園では、8月は平和について考える月と位置づけています。毎年、年長のぞうぐみに原爆について描かれた紙芝居を読み聞かせてきました。戦争をふくめ、世界でも、国内でも解決困難な問題が多く起こっています。問題に立ち向かうためには「伝える力・聞く力」が不可欠であると私は思います。この2つの力は、子どもが将来に渡って生き抜く力になります。多くの子どもたちに「伝える力・聞く力」を授けることができれば、世界の平和にも影響を与えることができるかもしれません。

～お知らせ～

- ・夏季中、保育士栄養士実習生、学生アルバイト(今年も卒園児が帰ってきてくれました)が保育、給食に入ります。